西多摩医師会報

第四号

第4号 昭和47年10月7日発行

発行所
西多摩医師会
発行人 高水 武夫
編集責任者 箱崎 淳
青梅市西分3－103
電話（0428）3－2171
（0428）3－2172

身にしむや亡妻の櫛を閨に踏む

きりぎりす自在をのぼる夜寒哉

盗人の首領哥よむけふの月

——蕪村——

目次

		頁
★所感	高水武夫	
★時論		
最近の医政問題（その三）	小泉新策	1
★新入会員紹介		3
★随筆		
ロマンチスト集団	伊与木憲太	4
トロロ葵	F生	6
宝石夜話	M・H・生	7
★趣味		
漢詩の作法と歴史（その二）	岸田壮一	12
寄術研究のすすめ	池田聖	18
ドライブへのいざない（第四回）	川崎健一郎	21
★談話室		
『漢詩の作法と歴史』読後感	川崎健一郎	23
お手やわらかに	〃	〃
★各部だより		
福祉部・産業医部		25
夏の碁会・ボウリング同好会だより		26
第34回青梅医師会ゴルフコンペ		27
★編集後記		28

所感

会長　高水武夫

暑かった夏も、台風二十号の来襲に依って、長かった暑気を吹き払い、此の二十二日には仲秋の名月を迎え、馬肥ゆる心地よい季節となりました。会員各位には、益々御元気にて御活躍の事と存じます。

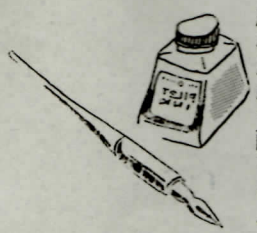
西多摩医師会報も、そろそろ軌道に乗ったとも申せませうか、各位の御協力に依り、既に第三号の発刊を見ましたことは、皆様と共に御同慶にたえません。

前会長小泉先生、並びに西村先生の医政に対する御考察と御意見を始めとし、宮本小次郎氏、大言居士氏等の、常に、我々が身近かに立ち向ふ事を余儀なくされる保険医療のつたなさに対する忌憚のない御批判等を拝見し、会員諸兄、一人一人が、此の、秋の夜長の、例へ、一時間でも悩める医療問題に心を留めて頂き、会報を通じて、どしどし御自分の御意見を、御投稿下さらんことを願って止みません。

又趣味欄に於ける、川崎、石川両先生の旅行記等も面白く、岸田先生に於ける〝漢詩〟の如く、他にも、まだまだ沢山御趣味を、お持ちの先生方も居られることゝ思はれ、会員相互の知識の向上の為めに、又池田先生の如き、楽しく読め、且つ、会員の和を心掛けて下さる様な随筆等を、多数御寄せ頂き度いと存じます。

右第三号迄の所感に羅み、皆様の機関紙の為めに、尚は一層の御援助を御願い申上げます。

尚ほ、過日の編集会議の席上、会員各位、一年に一回、何れかの形で御投稿下さる様、取り決めましたので、原稿用紙を配布の上、編集委員が順次指名致し度いと存じますので宜敷しく御願い申上げます。



時論

最近の医政問題（その三）

日・都代議員　小泉新策

一九七一年七月一日より一ケ月間の猶予期間を経て全国一斉八万の日医会員が保険医としての資格を返上して保険診療を拒否した。国民の与論は沸騰し日に日に医師会に対する批判が熾烈となって行くその注目の中で政府要路との会談がつゞき遂に政府側より四項目を又医師会側より八項目の条件を提起し七月廿八日佐藤総理と武見会長とのトップ会談で合意が成立し時局収拾のめどがついたわけで七月三十一日を以て辞退をとりやめ八月一日より保険医に復帰した。合意条項は政府側から

㈠健保制度の抜本改正を次期国会に提案する。

㈡国民医療基本法を制定する。

㈢医療制定の長期改革計画に着手する。

㈣医療費に物価人件費の上昇分に見合うスライド制を取り入れる。

医師会側からは

①国民の連帯意識の高揚（地域保険）

②生存期間の一貫保障（現行保険統合）

③労務管理と社会保障の分離（組合解体）

④負担と給付の公平（地域と産業に整理）

⑤低所得層の有病率は高所得層の六倍。（政管健保の赤字根源こゝにある）

⑥医療従事者の質的向上をはかる。（医師看護婦等の待遇改善技術向上はかる）

⑦大学研究費の公費負担。（診療費で研究費を賄って居る現況を国家経済で打破する）

⑧保険事務の簡素化

以上十二項目を了承事項として辞退を解除したのであるが、この十二項目こそ総辞退をかけてかちとった唯一の契約条件であることを我々は特に銘記すべきである。

扨て解除の時点で税務対策について話合がなされて居ったらうか。このことはどうであったろうか。会員の大いなる経済的犠牲の上に立って成立した総辞退の事後処理のことであるからこのことについて配慮が充分なされなければならなかったわけであるが、残念なことに、これがなされなかったようである。

交渉の結果後日当局は斟酌率なる表現で自由診療に対する課税方式を糊塗したが、恐らくこの時点では収拾に急なるの余り何等配慮は払はれなかっというのが真相のようである。

又人事の問題に就ても解除後の再就任の面で最初に明確を欠いて

居た為めの混乱が種々あったが、これ等の混乱を乗り越えて兎にも角にも保険が軌道に復帰して運行が始められるに至ったのである。

一方要求を重ねて来た緊急是正としての診療報酬の引き上げ幅に就ては中医協で保険者側公益側の不当なる抵抗と圧迫にあい決定が延びに延び手も足も出ず、折しも武見会長は外国出張中、留守部隊の軽卒なる行動として最初の要求額を自らの手で引き下げるという不手際を行ったことは却って相手側に乗ぜられるところとなり、決定を見ずして遂に年を越したわけである。これ等中医協との交渉段階に於て保険者側公益側の悪辣にして老獪極まる言動をまざまざ見せつけられた我々医師会は勿論のこと一般国民の間からも厳しい批判を生むに至ったわけであって、由来中央医療協議会なるものゝ改造論や強硬なる廃止論が澎湃として抬頭して来たわけである。明けて二月遂に緊急是正は実施されるに至ったが、実施はされたが前述の如く更に再度要求を出さねばならぬ状況にある。

前国会では保険法改正案も医療基本法案も流れて佐藤内閣は終幕新たに田中内閣が登場となった。曾って合意四原則を打出した昭和卅六年七月卅日、時の厚相灘尾弘吉、内閣官房長官田中角栄は㈠医療保険制度の抜本改正㈡医学研究と教育の向上と国民福祉の結合㈢医師と患者の人間関係に基づく自由の確立㈣自由経済社会に於ける診療報酬制度の確立。自民党を代表して以上の確約をしたのであるが、政府は毫も実行に移そうとせず、徒らに十二年の歳月は流れ、そして今日ではこの確約も怨嗟の呪文と化したわけである。

田中総理に対する国民の期待は大きい。過去の官僚政治に飽きあきして居る国民は官僚出身でもなく吉田学校出身でもない憲政史上最初の庶民宰相である田中氏に大いなる期待をよせている。而も若さと明晰敏腕が非常に魅力であるわけで、ジャーナリズムは今太閤と称揚して居る。このことも蓋し宜べなるかなであらう。池田佐藤前首相時代は吉田学校優等生達に武見会長は浅からぬ因縁があり政治的偉力の発揮が期待されたわけであるが、遂に目的の達成は出来得なかった。政治的影響力を感じた現時点では兎角批判する向きもないではないが我々はそうは思はない。又そう思ってはならないのである。武見会長と田中総理は旧知の間柄であるばかりでなく共に越後人同志であり今度こそ過去の確約の実現が期待出来るときである。特に此の際我々医界からの希望としては側近に医療行政通の良きブレーンを揃えて行き詰った医療行政に新機軸を展開して今後の日本の医療制度に光明をかゝげてもらいたいものである。

昨今日本列島改造論が各方面から色々の角度で研究がつゞけられているが、その論旨の中に医療制度としての問題が不思議といまだ表面化していない。今の時点では検討がすゝめられてはいなくても新都市計画の中にはこれ等の構想が位置づけておかれなければならない。勿論今後充分掘り下げられた段階では医療の青写真が現れて来ることであらう。我々は我々の主張を日本列島改造論の中味の一つの支柱として今度こそ貫いて行きたいものである。

新入会員紹介

・鈴木良亮先生
青梅市小曾木診療所にて御開業
岩手医大　昭和三十四年三月御卒業

・波田野洋夫先生
瑞穂町長岡下師岡二〇七（元山田医院跡）にて御開業
順天堂医大昭和二十五年三月御卒業

・遠山泰策先生
成木診療所御着任
岩手医大　昭和三十三年三月御卒業

・豊泉　稔先生
福生市大聖病院外科勤務
新潟大学医学部　昭和二十九年三月御卒業

・大谷誓治先生
青梅市立綜合病院外科勤務
北大医学部昭和四十五年三月御卒業

・折尾正広先生
福生市目白第二病院外科勤務
山口大学医学部　昭和四十二年三月御卒業

・岩本英竜先生
阿伎留病院産婦人科勤務
日大医学部昭和三十八年三月御卒業

・館浦征児先生
阿伎留病院整形外科勤務
日大医学部昭和四十六年三月御卒業

動脈硬化・高血圧の愁訴に

Eisai

ユベラ　ニコチネート

血流不全による愁訴を改善するだけでなく、血管を強化し、眼底出血や脳出血の防止に役立ち、また、脂質代謝を改善し、血管の弾力性を保持します。

随筆

ロマンチスト集団

伊与木　憲太

陽の当たらない人達に光を当てるというのが政治というもんだ、という雄三の持論からすれば、庶民宰相といっても果して本当に庶民の味方かどうか、という事になると速断はできないが、その田中新総理が誕生して日本列島改造論がマスコミを賑わしていたある夏の宵、雄三の家ではビールパーティーが開かれていた。

集まったのは、森本、諸川、山路、醍醐でお互いに好き勝手な事が言い合える仲なので、何彼につけてこうして集まっては飲むのである。

さて、ボツボツ、アルコールが廻ったところで例によって雄三が切り出した。

「日本列島改造論は、政治家とか評論家とか称する連中に任すとして、われわれはもっと身近かな問題について話し合おうよ。」

「テーマは何にするの？」すかさず森本が言った。

「いやまあ、特にテーマだなんて堅苦しいことを言わずに、お互いに何でも思ってることを言えばいいじゃないか。ただし、他人の悪口を肴にして酒を飲むのはよそうよ。」と雄三。

「もちろんそれは賛成だがね。とにかくいま雄さんが言いたいことは何なんだよ。」と山路。

「近頃チョット思ってる事があるんだ。それはね、麻雀や競馬なんかで儲けた話をしたり、大物を釣り上げた時の様子を、得意気に喋る釣天狗などなら、それはそれで可愛らしいものだが、『おれはお前達より役者が一枚上なんだぞ』といわんばかりに思い上っている奴がいるけど、そんなのは全く鼻持ちならないし、ノボセルナ!!と言いたくなるんだな。」と雄三が怪気炎を上げる。喋りながら雄三は、自分の語気がだんだん強まっていくのを感じた。

「そんなことでカッカとしているようじゃ、雄さんまだ修養がたりないよ。」と山路。

「そうか、ボクはまだ至らないという訳か。そう言えばボクの喋り方には穏やかさが足りないし、すぐに喧嘩腰になるものなあ。」

と、今宵の雄三はいつになく素直だ。

「なに!!ボクだと、ボクという顔でもないくせに。」諸川がまぜ返す。

「穏やかさが足りない、なんていうものじゃないよ。雄さんの喋り方はきつ過ぎるよ。同じ事を言うんでも、もっと穏やかに言わなければ雄さん損するよ。」と醍醐。

「損得はともかくとして、雄さんの喋り方は確かにきついよ。」と山路も同調する。

「しかしまあ、それでもいいじゃないの。判る人は判っているんだから。」と森本は幾分なぐさめ顔に言う。

「でもね」と雄三得意のでもねが出る。

「でもね、欠点には違いないんだから直せるもんなら直したいと思うんだけど、いざその時になると、どうしても地金が出てしまうんなあ。」

「やっぱりヘバカは死ななきゃ……」と諸川がまた合いの手を入れる。

虎造の浪花節が出たところで、今度は醍醐が唄い出した。みんな程良く酔って来たようだ。

ヘ逃げた女房にゃ　未練はないが
お乳欲しがる　この児が可愛い
……　……　……

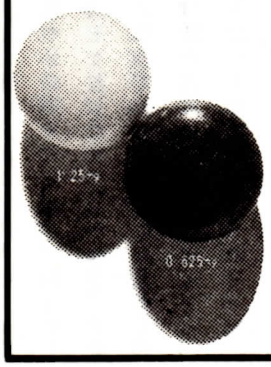
ご存じ一節太郎の浪曲子守唄だ。この連中は浪花節的人間なのかな？　それはともかく、義理、人情に厚いことだけは確かなようだ。いや、ロマンチスト集団と言った方が適切かな？

そう言えば、続いて雄三が唄った歌は鉄幹の「人を恋うる唄」だった。

ヘ妻をめとらば　才たけて
みめ美わしく　情ある
友を選ばば　書を読みて
六分の侠気　四分の熱

後半の二小節は、全員大声を張り上げての大合唱だった。唄いながら雄三は、良き友に恵まれた幸福（しあわせ）をシミジミと噛みしめているようだった。

森本は、雄三の目にキラリと光るものを見た。雄三は雄三で、森本や山路の目にも光るものを見たが、その事についてはお互いに何も言わなかった。



更年期および更年期後の婦人に！
〈天然・結合型エストロゲン製剤〉
プレマリン錠

■特長　1.天然水溶性のエストロゲンです。2.高力価を含有します。3.経口投与で活性です。4.更年期障害の諸症状を速やかに寛解させしかも健康感を与えます。5.閉経期後のエストロゲン欠乏により起る種々の代謝異常を改善します。

■包装　プレマリン錠 1.25mg(黄色)105錠、525錠、1050錠、
プレマリン錠 0.625mg(褐色)105錠、525錠、1050錠

健保適用

製造発売元
東洋醸造株式会社

提携
アイヤースト・ラボラトリーズ

トロロ葵

『生

諸兄は、〝トロロ葵〟、学名を〝黄蜀葵〟と呼ばれる草を、御存知であろうか、七月から九月頃にかけて淡い鮮黄色で、中心は、暗紫褐色の大きな花を咲かせる多年生草で、一個の花は、朝開いて夕べには、しぼむ一日花ではあるが、毎日、次から次へと長く咲き続け、其の風情は、朝より夕べが良く、薄暮のそれは、はなやかではあるが、どこか淋しさのある、妖艶な年増を思はしめる。

七、八月の暑い盛りよりも、立秋が過ぎ、そろそろ涼風が吹き始め、日中流れる様に飛んでいた赤トンボも塒にかえり、薄明るい空に〝かわほり〟が舞う様になると、其の黄色の鮮やかさは、浮き上る様に周囲を圧して、湯上りの、一日を終えた人々の目を楽しませて呉れる。

とろろ葵と云われる様に、其の根は、昔から日本紙を漉く〝おり〟と呼ばれる粘料に用いられ、黄蜀葵根と呼ばれる粘滑剤に用いられた程に粘性が強く、世に云う〝肥後のずいき〟と同じ用にも使われたらしい。

何時でも、其の様であるが、其の女も、夜の診察がそろそろ終りに近づき、我々がやれやれと、一息つく頃、影の様に静かに入って来て、さも困った様に、恥かしそうに訴えた。

「先生…、何とかなりませんでしょうか…アソコが痒ゆくて… トテモ…」

「ナニ… 何うした、アソコが痒ゆい…」

彼女は、本当に、いかにも痒ゆそうに、着物の上から、其所を摑む様に、身をくねらせた。

「マア、免に角、見せてごらん…」

いやはや、まあ何と酷いことか、其の部分は、真赤に腫れ上がり、掻きむしった跡は、痂皮や分泌物でおおわれ、何とかして、夫婦で治そうとしたものであろう、テレビの広告に依って、もたらされた数多くの薬を塗り付けた苦労の跡が所々にはり付いて眼を覆うばかりの枯野であった。

「オイオイ、アンタ、これは、どうしたと云うんだい…」

「エ、アノ、一寸ット…」

「一寸ットって何だい、大体ことの起りは何んだい、これは……」

「イエ… うちの人が何処から聞いて来たんだか……いたづらをして……

アノ時、トテモ良くなるとかで……

ホラ、先生、黄色い大きな花で… よく、近頃咲いているでしょう……」

「ハ、ハーン、トロロ葵か…」

「エ、何か私はよく知らないけど… 其の根のネバネバを… 私に、塗り付けて…」

「ソ、ソウカ… やって呉れたネエ… デ、どうだったい…」

「……　イヤナ先生……」

彼女の親父は、背の低い、がっしりとした、よくこまごまと働き回り、この辺でも仲々の商売上手で、近頃はスーパーマーケット様の店を出す程の仲々達者な四十五、六の男である。

そんな事があって十日も経った頃であろうか、彼女の枯野もすっかり焼き払われ、瑞瑞しい園生に生れ変った頃、彼は、二級酒を一本ぶらさげて、私の所へ米搗きバッタの様に恐縮してやって来た。

「ヤァ、先生、参った参った、アレカラ、三、四日、毎晩寝ないで女房のアソコを団扇で煽がされちゃった…　デモ、先生ヨウ、誰にも、云わんといて呉れナァ…」

「ナニイ、馬鹿奴、俺の口が二級酒一本で塞げると思ってるんかい…」

其の翌日、彼は、早速特級酒に取り替えて行ったらしい…。

×　×　×

古川柳〝末摘花抄〟にこんなのがある。

両国に〝四ツ目屋〟という性具、性薬の店あり、片輪とは、四ツ目屋の薬で効かぬ女、と云われた程の効果てきめんなり。

くたびれた夫婦の床は四ツ目結い

せんどの薬をと女房忘れ得ず

長命丸は、ぬり薬、行う前に入れ置けば、やがて泉でとけ出だし、男根のふれる感触は、身の震うほどに高まりぬ、とけて流れた其の時は箱枕の引出しそっとあけ、取り出したる「リンの玉」小サナ玉だが、入れおけば、うまいぐあいに転びゆき、喜悦の個所にふれあたる、一度試したその時は、思わず声の高まりて、ずいきの涙はらはらと、

リンの玉女房急には承知せず

よがる筈これは九州肥後の産

……

今も昔も、人間のやることは同じ様である。

宝石夜話

M・H、生

戦後何度か静かなブームを続けて来た宝石が、最近通貨不安の影響もあって特に注目を浴びて来た。身につけて楽しみ乍ら財産を残そうという人々が増え、宝石が投資の対象として考えられる様になった。何年経っても消耗したりその物の価値が下ることと無くむしろ値上りする一方で価値が永久に残り、そして万が一の時に役立つという事と、財産としてめだたずに残せるというのが大きなメリットだと思う。

それでは宝石の価値、魅力とはどんな所にあるのだろうか。先づ第一に美しい、美麗であるという事。その次には珍しい、稀有に属するという事、つまり沢山あっては

宝石の価値は無いわけである。第三に硬度を持っている、かたいという事である。鉱物学上から分類すれば三百種とか四百種とかいっているが、その中で宝石つまり貴石（鉱物学者は宝石を貴石と半貴石に分類している）として扱われるのは約八十種位しかない。その分類方法は水晶（硬度七度）の硬さが標準になっている。水晶より硬いもの、つまり七度以上のものを以て天然宝石とするわけである。但し例外として真珠と珊瑚が加わっている。これを準宝石といっている。

真珠は貝殻で石灰質であるから七度以上の硬度はない。然し真珠には又違った魅力がある。人が始めて天然真珠を発見して以来、これは非常に珍しいものだという事で人々に珍重され、しかも、真珠は今日迄古い歴史を持っている。斯様なわけで真珠は鉱物ではなく動物質のものであり乍ら宝石の仲間入りをしているわけである。

珊瑚は虫が固まって美しいくれないの色を帯びていて昔から金銀珊瑚として貴ばれているものであるが、これもやはり動物質のものである。宝石は鉱物一般の宝石といえば天然の宝石のみを意味する様であるが、詳しくいえば宝石は天然宝石と、人造宝石と、模造宝石の三つに分ける事が出来る。天然宝石を分けると、貴石と半貴石と準宝石の三種となるが、これも時代及び民族によって各々異なった説もあって一定していない。現在では学術的研究が進歩して宝石類の物理的、化学的、結晶光学的な総べての性質や成分が解ってきた。歴史上ではルビー、サファイヤ、エメラルドの方が古くから宝石として取扱われ研磨の方法が発見されて以来、ダイヤモンドが一躍宝石の王座の位置を占める様になった。ダイヤモンドの流行は恐らく今後も永遠に宝石の王座を占めるだろうと思われる。

「ダイヤモンド。」宝石の王様といわれるだけあって正確にカットされ、綺麗に研磨されたダイヤモンドは独特の金剛光沢を放ち、その美しさは他に類をみない。原産地はインドで四千年も前に発見されたという。現在はその産出の殆んどが南アフリカである。その他ではブラジル、シベリア、アメリカ等があるが産出は非常に少ない。ダイヤモンドの発見には色々なエピソードがあるが、一八六八年アフリカでダイヤモンド鉱山が発見され、時ならぬダイヤモンドラッシュが起ったが、その発端は「ヤコブ」という男の子が拾って来て遊んでいた石で、それがダイヤモンドだったそうである。現在南アで産出するダイヤモンドの殆んどがロンドンのシンジケートに買い上げられ、アムステルダムやアントワープで研磨される。そしてシンジケートの管理（価格、数量）で世界に放出される。そのために年々確実に値上りして殆んど変動がないので財産的価値が一番高いわけである。ダイヤモンドのカットは大部分が五八面体のブリリアンカットに磨かれ美しい金剛光沢を放つ。その他ドロップ、マーキーズ、バケット等のカットもある。ダイヤモンドの価値を決めるのには4Cという決め手がある。カラット、カット、カラー、クラリティ（鮮明

度）の頭文字cをとったもので、この4Cの度合によって値が決まってくる。これは他の宝石にもあてはまるものである。一カラットというのは重さの単位で約〇・二瓦である。又「キズ」の有無、その中にカーボン（黒点）があるか、どうかという事、疵の大小、その位置等も値を左右する要素となっている。次にダイヤモンドの美点をあげると、宝石の中で一番硬いので疵がつかない消耗しない。国際的の価値を持ち世界的に融通性に富んでいる。火力に非常に強い。又光線や薬物の作用にも侵されないので保存力が強い。財産保全として、金融が容易に出来る。ポケットの中でも数万円、数億円をたやすく持って出る事が出来る。隠匿し易く、税金の対策として秘密性に富んでいる等である。

昔からダイヤモンドは大きければ良いとされた向きもあったが、むしろ最近では小粒の石を沢山使ったものが婚約リングとして売り出されている。世界一のダイヤモンド会社「デ・ビアス」でもここ数年来ダイヤモンド、ジュエリーとして小粒の石を使ったリングのデザイン、コンテストを催している。ダイヤモンドの色は様々であるが、工業用の黒いものや、褐色、茶色、黄色、ブルー、ピンク等があり、黄色やクリームがかったものが安く、ホワイトブルーが高価である。更にファンシーカラーとしてピンクは非常に少なく一番高価である。又最近はダイヤモンドに放射線をあて色をつける事も研究されている。

「真珠」真珠には天然のものと養殖のものとがある。最初試みた養殖の方法では誰にも天然のものとの区別がついたそうであるが、その後天然真珠と同じ状態のものに真珠を養殖する事が発明され、ここ二十数年の間に長足の進歩を遂げて、今日では天然真珠も養殖真珠も分らない迄になった。日本で養殖されている真珠は日本近海にしか棲息しないアコヤ貝という二枚貝によって作られる。真珠養殖には先づ母貝（真珠を養殖する為のアコヤ貝）を成育させなければならない。この期間は約三年位かかる。十分成育した母貝に丸く磨いた核（ミシシッピー産ドブ貝使用）を作り母貝を殺さない様にしてそれを入れてやる。そして真珠が出来る迄には更に三乃至四年の歳月がかかる。この間天然自然の悪条件（赤潮の襲来、海水の公害等）にも遭遇するので、貝から取り出した真珠は全部よいものではないのである。屑真珠みたいなものが多く、良いのは僅かなのである。だからこそ人工とはいえ稀小価値があるわけである。宝石のうちでダイヤモンドは「キング」、真珠は「クイーン」だといわれている様に真珠はたしかに女性的なものだと思われる。真珠は貝殻から現われたそのままが立派な玉でその真珠層の光沢は他の宝石にはみられない非常に優雅な光を持っている。が然し他の宝石類と違って動物質のものである為硬度が柔かくて疵がつき易い。又火力にも弱く薬物にも侵され易いという欠点がある。真珠に限らず宝石の通則であるが、完全無欠のものは少ない。その為それを細工する時にその欠点を見せない様に作るわけであ

る。指輪にしても、ブローチにしても疵の所に穴をあけて金属をさしとめるとか、葉の飾りを持ってくるとか工夫してその美しい肌の部分だけをよく見せる様にしてある。真珠のネックレスは時代の流行によって色々の種類のものがある。ごく普通のものは十五、六インチ（四八センチから五〇センチ）で、真珠の玉が八十個から百個位ついている。八ミリ玉のオールサイズ（チョーカー）は非常に高価なものである。真珠にはピンク、銀色、金色、金色の中にイエロー、黒真珠といって青味を帯びたもの等の色に分けられる。国により好みがそれぞれ違って欧米人はピンク、日本人は白、インド・濠州あたりでは金色イエローを好むそうである。又今日では染料技術が進んでいるので電気で着色したり、液体につけて着色したりする事が研究されている。日本特産のアコヤ貝からとれる真珠の他に海外から産出するものに南洋珠といわれるものや、半円真珠がある。これは母貝が白蝶貝、マベ貝等でアコヤ貝からとれる真珠よりも大きい。然し色や光沢は可成り劣る。その他海水でなく琵琶湖や霞ケ浦で養殖されている無核の淡水真珠も大いに注目されている。余談だが、面白い事に真珠を計る単位にメートル法中心の今日でも、日本古来からの習慣の匁の単位が使われ、世界各国から来るバイヤーの間で罷り通っている。又ネックレスの長さはインチ、玉の大きさはミリ、更に細工の地金を計るのはグラムである。

「エメラルド。」　ルビーと共に歴史の古いエメラルドは今日では産出が非常に少ないのでいっそう珍重されている。産地は主にコロンビアとウラルである。色の非常に冴えて光沢のあるものが良いとされている。ちょうど五月の青葉が燃え上っている様な新緑色のものと、八月の木の葉の色、深青色のものと二種類ある。キズのないものはエメラルドでないとまでいわれている程でキズの事は問題にならない。むしろキズのない物は天然のエメラルドではないという事である。殆んどエメラルドカット（四角で四隅を切り落した様なカット）に磨かれる。比較的柔かくてもろいので使う際は充分注意が必要である。

「ルビー、サアファイヤ。」　宝石として一番古くから使われているのは、ルビー、サアファイヤである。ダイヤモンドの出現する迄は赤と青の最も固い石として王座を占めていた。元来鉱物としては同じ石でコランダムと呼ばれ、赤い色のコランダムのみルビーと呼び、青色を普通サアファイヤと呼んでいるが、本当はブルーサアファイヤが正しい。原産地はインド、セイロンで現在はビルマ、セイロン、タイが主である。ルビーの色はピジョンブラッド（鳩の血の色）が良いとされ、サアファイヤはコーンフラワーブルー（コーンの花の青）が美しいものと昔からいわれている。現在サアファイヤはコバルトブルーが最も高価である。殆んどがオーバルカット（ブリリアンカット）ステップカットに磨かれる。現在人気が出ているスターのでるコランダムは結晶体の関係でカボンヨン型に磨かれる。

「オパール。」　オパールは蛋白石といっ

て、その種類は学問上からいうと二十数種類もあるが、大体色によって種類を分けている。日本では比較的ポピュラーなものとして早くから出回っているものはオーストラリア産で色の系統によって「青タチ」、「赤タチ」という風に分けられている。オパールの七色の光は独特のもので大変美しい。ただ水分が無くなると亀裂を生じたり、やわらかい性質を持っているので表面がくもるので保存上には充分の注意がいる。

オパールの中にはメキシコオパールといってメキシコ独特のものがある。普通のオパールは半透明が多いがメキシコオパールは透明体である。オパールのうちで一番上等のものはブラックオパールの中の孔雀色のものである。

その他、日本女性に人気のあるヒスイ、半貴石だが比較的よく出回っているものにアメジスト、ガーネット、トパーズ、トルコ石、トルマリン、アクアマリン、クンツアイトスピネル等がある。これらを使ったデザイン、リングが若い人達にうけている。

人造宝石、模造宝石。科学の進んだ今日では科学者が天然宝石と同じものを作る為に研究を積んでいる。これを人造宝石という。もう一つ、これらのものを模造する模造性宝石がある。ダイヤモンドの人造宝石にチタニア、ダイヤモネヤがあり、ルビーの人造宝石にはシンセティックがある。戦後完成されたアメリカのチャタムの合成宝石のエメラルドの優秀さは世界の宝石業界を驚かした程よいものが出来ている。であるから天然宝石との見分け方が非常にむずかしいので、天然宝石を求められる時は信用ある一流宝石専門店より購入するのが安全ではないかと思われる。

宇宙にあるたいていのものは、長い間には形が変ったり無くなったりするが、宝石はいつ迄経っても元のままの光を失わないで美しい色を保っている。いつでも自分の好きな時に手の中に入れて鑑賞する事が出来る。この様なものは他に求める事が出来ない。斯様な点が私には大変興味深く思われる。

趣味

漢詩の作法と歴史（その二）

（福生病院勤務）
岸田壮一

今日我々が知る漢詩の形式も大体この頃確立したといえる。殆んどが五字又は七字を一句として並べるもので、中には四字又は六字のものもあるがこれは例外的である。五字を四行並べるものを「五言絶句（略して単に五絶）」、七字を四行並べるのを「七言絶句（略して単に七絶）」と呼ぶ。絶という意味はハッキリしないが長いものを絶ち切ったということらしい。同じく八行のものをそれぞれ「五言律詩（或は単に五律）」という。律詩では中間の四行即ち第三行と第四行、第五行と第六行とは完全に対句をなしていなくてはならない。例として韓退之の「左遷至藍関示姪孫湘」を書いて見ると

一封朝奏九重天
夕貶潮州路八千
欲為聖明除弊事
肯将衰朽惜残年
雲横秦嶺家何在
雪擁藍関馬不前
知汝遠来応有意
好収吾骨瘴江辺

であるが、第三行の「欲す」と第四行の「肯えて」、「為めに」と第四行の「将つて」、「聖明」と「衰朽」、「除く」と、「惜しむ」、「弊事」と「残年」、第五行の「雲」と第六行の「雪」、「横わる」と「擁する」、「秦嶺」と「藍関」、「家」と「馬」、「何くにか」と「不」、「在る」と「前む」という風にそれぞれが対応している。特に素晴らしいのは雲と雪といった天然現象や、秦嶺と藍関などの地名個有名詞まで対にしたところである。

七言の場合はあまりやらないが、五言の場合に単に八行に止らず、更に次次と対句を並べて何行にも及ぶものがある。これを排律といって又別の一つの形式である。

これだけ出来れば詩になったわけではない。西洋の詩も同じらしいが、各行の終り即ち最後の字には必ず「韻」というものが要る。日本の詩歌ではあまりハッキリしないが、本当はやはり韻があるという話も聞く。漢詩ではどうしてもこれがなくてはならない。

例としては適当ではないかも知れないが、ゲーテ作で、「シューベルト」と「ヴェルナー」がそれぞれ別の曲を作っている「野薔薇」というのがある。その一番を書いて見ると

Sah ein Knab'ein Röslein stehen,
Röslein auf der Heiden
War so jung und morgenschön.
Lief er schnell es nah zu sehen,
Sah's mit vilen Freunden.
Röslein, Röslein, Röslein rot,
Röslein auf der Heiden.

である。第一行の stehen と第四行の sehen は頭が st と s との差があるだけで後は同じである。第二行の Heiden 第五行の Freunden 又第七行の Heiden は何れも -den という語尾は同じである。こういうのを韻というのであろう。

漢字の数は何万或は何十万ともいわれて、殆んど無数であるが、読んで発音する時は限られた母音と子音の組合せによる One Syllable であるから、どうしても同じ音の字が出来る。それをいくらかでも区別するために、その字特有の Accent なり Intonation をつけるように自然となった。これによって漢字を大別すると四種類に分けられる。こういう研究は南北朝の頃既に相当進んでいたようである。声又は音といい、現在の中国語にもあるようである。平声、上声、去声、入声の四つであって、漢和字典にはそれぞれ、□、□、□、□の記号で書いてある。更に平声は上平声、下平声と分けられるそうだが、それは今我々にはあまり必要がない。詩の分野では平声はそのままであるが、上声、去声、入声は一緒にして仄音、仄字、仄声或は仄韻などと呼んでいる。

その上に先程 stehen と sehen でいった如き韻に分類すると、上平声は十五、下平声十五、上声二十九、去声三十、入声十七で、計百六の韻になる。それぞれその韻を代表する字を以て示し、一東韻、二冬韻、三江韻等という風に呼ぶ。字典で見ると例えば「紅」の字をひけばその字の下に東と書いているのは上平声一東韻に属する字であることを示している。

前にあった韓退之の詩でいうと、第一行の終りの字は「天」で、第二行は「千」、第四行は「年」、第六行は「前」、第八行は「辺」で、それぞれ Ten Sen Nen Zen Hen になっており、何れも下平声一先韻である。こうすることを韻を踏む、韻を合わす、或は揃える又は押韻するという。

律詩の場合は第一行は必ずしも韻を踏まなくてもよい。しかし第二、第四、第六、第八行即ち偶数番目の行はどうしても同じ韻でなければならない。

律詩は作法が非常にむずかしいので、先に七言絶句について説明すると、例えば有名な乃木大将の詩で

山川草木転荒 涼 □は韻を示す
十里風腥新戦 場 以下同じ
征馬不前人不語
金州城外立斜 陽

というのがあるが、この第一、第二、第四行の最後の字を見ると、それぞれ涼 Ryo、場 Jyo、陽 Yo であって、下平声七陽韻である。

絶句の場合第一行を起句、第二行を承句、第三行を転句、第四行を結句と呼ぶ。論文 Essay を書く場合も、演説で意見を発表する場合でもこういう順に進めるのが常識かも

知れない。先ず何をいうかを示し、それについて更に説明し、一転して変った方面を論議し、最後に結論するプロセスで、この「起承転結」の語はよく他のことでも引合に出される。

韻のことをいえば起承結の三句は同じ韻を用いねばならない。転局は別の韻を当てる。普通は韻字には平音を使うから転句の最後の字は仄音を使わねばならない。ただ仄音であればいいのだから、他の行のように限られた韻字がないので比較的自由な表現が出来るとされる。全体をヒックリ返して起承結の三句に仄音の同じ韻字を揃えて、転句に平音の字を持って来るのもある。拗体とか側体とかいって、これでもいいが、実際には余程実力がなければ出来ないことである。平音の字の方が使い易い字が多いからである。

俗に「下手の八庚(こう)」などといっているのは、下平声八庚韻には庚、更、羹、杭、盲、横、觥、彭、棚、亨、鎗、英、瑛、烹、平、評、枰、京、驚、荊、明、盟、鳴、栄、瑩、兵、兄、卿、生、甥、笙、牲、檠、擎、鯨、黥、迎、行、衡、耕、萌、氓、甍、紘、宏、閎、莖、甖、罃、鶯、桜、泓、橙、争、箏、清、情、晴、精、菁、晶、旌、盈、楹、瀛、嬰、纓、貞、成、盛、城、誠、呈、程、酲、声、征、鉦、正、軽、名、令、并、傾、縈、甇、瓊、嫈、槍、崢、猩、丁、頃、蜻、鵬、轟、坪、鸚、泙など日常使っている字が割合に多いので、この韻を用いれば詩が作り易いということである。

今この詩について全部の字の平字を○、仄字を●で示して見ると

○○●●●○○ 山川草木転荒涼
●●○○○●○ 十里風腥新戦場
○●●○○●● 征馬不前人不語
○○○●●○○ 金州城外立斜陽

である。先ずいえることは各行とも下の三字を見る時に○○○又は●●●となってはいない。俗にこれを「下に三平なく、三仄なし」というので、下三字は決して全部平字又は全部仄字にしてはならないのである。

又起句の第二字目は平字であり、第四字目は仄字であり、第六字目は又平字である。これを俗に「二四不同、二六対(つい)」という。各句の第二字目を平字を使えば第四字目は仄字、第六字目は平字と必ずしなければならない。第二行即ち承句はその逆となり、第三行即ち転句は承句と同じく、第四行即ち結句は再び逆となり、起句と同じくなる。

今のを平仄だけの記号で並べると

○	○	●	○
○	●	●	○
○	●	○	●
●	○	○	●
●	○	○	●
○	●	●	○
○	●	○	○

となって、第二字目を横に見ると○●●○、第四字目は●○○●、第六字目は又○●●○である。こうなるように字を並べなくてはならない。起句の第二字目をこの詩の如く平字にするのを「平起」或は「偏格」といひ、仄字のものを「仄起」或は「正格」

という。どちらでも構わない。

ただ全体を見渡した時に○◑○、或は●○◑と並んだ箇所がない。このような平字に挿まれた仄字、或は仄字に挿まれた平字はそれぞれ「孤仄」及び「孤平」といってこれもあってはならない。第二行承句の下三字は○●○であるが最後の字が韻字であるからここでは許される。孤平、孤仄については時に例外的に許されて却ってそのため趣を増すこともあるが、我々程度のものは絶対にしないように努めた方がいい。

各句とも第一字目、第三字目、第五字目は平仄何れでもいいが、こういうことのために自ら何れかを用いなくてはならない場合が生ずる。一応七言絶句の平仄式を図示すれば、仄起即ち正格は

◑●◑○◑●◎
◑○◑●◑○◎
◑○◑●◑○●
◑●◑○◑●◎

となる。◑は平仄何れでもよいことを示す。但し今いう如く、例えば起句の第一字目が平字であれば第三字目は仄字にしなければならない。でなければ第二字目が孤仄になる。又そうすると第五字目は平字にしなくてはならない。そうしなければ第四字目が孤平になるというようなわけである。又第一字目を仄字にすれば、第三字目は平仄何れでもよいが、もしこれに仄字を使えば第五字目は平字にしなければ第四字目が孤平になってしまう。

同様に平起即ち偏格の場合の平仄式は

◑○◑●●○◎
◑●◑○◑●◎
◑●◑○○●●
◑○◑●●○◎

で、根本的な理屈は前と同じであるが、第一行即ち起句の第五字目は仄字に限られ、第三行目の転句はやはり第五字目は平字に限られ、第四行目即ち結句の第五字目は仄字に限られる。そうしなければ下三字に三仄が出来たり、三平が出来たりするからである。

五言絶句の場合は一行が五字であるから、二四不同は同様であるが、二六対ということはない。又第一句は韻を踏まない。

これを図示すれば、仄起即ち正格は

◑●◑○●
◑○◑●◎
◑○○●●
◑●●○◎

で、平起即ち偏格は

◑○○●●
◑●●○◎
◑●◑○●
◑○◑●◎

である。その他の規則は七言絶句と同じである。話が前後するが七言絶句であっても第一行目即ち起句と第二行目承句に対句を用いるときは五言絶句の形と同じになり、第一行目即ち起句は韻を踏まず、仄字で終るようにするのが原則である。

五言絶句は直截明確であり、簡潔であって美しさもあるが、何としても五字で一つの Sentnce を作ることはナカナカ容易でなく、一回の Complete Thought のために二行使ってしまうと、もう二行しか後

がなく、こういう点ではむずかしい。我が国ではこの意味で七言絶句が最も流行り、漢詩といえば七言絶句であると思う人さえある。

律詩になると平仄式及び押韻は絶句を二つ並べたように考えればいい。例えば前の韓退之の詩でいうと

一●封○朝○奏●九●重○天○
夕○貶●潮○州○路●八●千○
欲●為●聖○明○除○弊●事●
肯●将○衰○朽●惜●残○年○
雲○横○秦●嶺●家○何○在●
雪●擁●藍○関○馬●不●前○
知○汝●遠●来○応○有●意●
好●収○吾○骨●瘴●江○辺○

となるが、平仄式を図示すれば

●	[○]	○	[●]	●	[○]	[○]
●	[●]	○	[○]	●	[●]	[○]
●	[●]	○	[○]	○	[●]	●
●	[○]	○	[●]	●	[○]	[○]
○	[○]	●	[●]	○	[○]	●
●	[●]	○	[○]	●	[●]	[○]
○	[●]	●	[○]	○	[●]	●
●	[○]	○	[●]	●	[○]	[○]

である。下に三平なく、三仄なし、二四不同二六対、孤平、孤仄なしなどは絶句と全く変らない。第二次目を横に見ると○●●○○●●○、第四字目は●○○●●○○●、第六字目は○●●○○●●○となっている。然も前にいう如く、第三行と第四行、第五行と第六行は対句にしなければならないから、律詩を作ることは大変むずかしい。

五言律詩や排律の場合も平仄式や韻は全く同様で、五言絶句を並べた形になる。

韻字は「詩韻含英」などの本を見れば同じ韻の字が出ているし、その用例もあるので、これから捜すのであるが、平仄に至っては一字ずつ字典をひくより他に正確に知る方法はない。しかし昔からイロイロの思付があって「フ、ク、ツ、チ、キに平字なし」などという。元来漢字は前にいう通り、One Syllable の発音であるから、日本のふり仮名はどうであっても、例えば雑(ザツ)、福(フク)、達(タツ)、吉(キチ)、力(リキ)などはf,k或はpなどの子音で終る字であって、こういうのは平声にならない。又別に或る一つの有名の詩を覚えておくと、これには誤りはない筈であるから、各句の第二、四、六字目の一つの字の平仄を知れば類推して他の字の平仄が分るわけである。ただ同じ字でも意味によって平声であったり、仄声であったりするから注意が要る。例えば「更」の字は「夜が更(ふ)ける」の意味の時は平であるが「更(さら)に」の時は仄である。

我々日本人は音で読んだり、訓で読んだり、或は返点を打って引繰返しに読んだりするのだから、こんな面倒なことはどうでもいいではないかという議論は無論ある。しかしそれをいうならばもともと五字なり七字なりで並べる意味はないし、ワザワザ漢文で書く意味も分らない。苟(いやしく)も漢詩を書こうという位のものはこの程度のこと位は勉強しなくてはトテモ微妙な表現は出来るものではないという考えが今でも支配的である。

絶や律はこうした形式をとるけれども、他に韻だけは踏むが、平仄は一切お構なしというのがあり、こういうのを一般に「古

詩」という。お構なしといっても自然と決る並べ方はあるのだろうか、我々にはよく分らない。古詩にも原則的には五言古詩と七言古詩とがあるわけだが、中には長短句取まぜたものもある。絶句と同じように短いものもあるが、一方には長い長いものもある。白楽天の「長恨歌」や「琵琶行」なども七言古詩の一種であるが、長恨歌は歌が長いからそういうのか、「恨み」が長いからかよく分らない。意味からすれば後者の方であろうが、歌も相当長い。こういうのは韻を踏むといっても全篇を通じて同じ韻で通すのではなく、話の筋書が一段落つくと韻を替えて進むのである。だから少し分る人が読むと韻が変ったことで、区切がついたことを自然と知れるようになっている。

古詩にもイロイロあって、前にいう楽府題」というものもこの中に入る。字数では絶又は律と見えるものもあるが、口調でも内容でも大分違う。題に「引」、「行」、「詞」、「歌」、「曲」、「府」などついているのは大体この類である。又「駢体」、「儷」などというものもある。時には詩だか散文だか分らないようなものもあり、散文である筈なのにワザワザ韻を踏んで詩の形を取り入れたものもある。（以下次号）

不当、疑問の査定、減点には
必ず再審請求を出そう。

毎月七日午后八時まで減点通知、
注意書、減点レセプトのコピー
等を提出して下さい。

奇術研究のすすめ

池田聖

奇術ほど面白いものはない。現に私が昭和二十一年から始めた奇術が今年で二十六年になるが、少しも情熱がおとろえていない。否、却ってますます面白さを加えて来た感がある。総ゆる趣味娯楽の中で、老若男女いづれにも楽しんでもらえるものは、奇術以外にはないと思う。演じて面白く、見て面白く、失敗してまた面白い。このセチ辛い万事機械化した世の中で、大人の夢を満足させてくれるものは奇術である。奇術は自分が楽しむだけでなく、沢山の人を楽しませることが出来る。

奇術を見て関心を示さない人は恐らくいないであろう。これは不思議な現象に対して驚きの目を見はり、その由って来るところを究めんとする情動は、人類の進歩発展の基である知的本能をゆり動かすからである。

更にこれを哲学的に云えば、物理を超え、不可能を可能とした奇現象の表現を目標とする「奇術」は、神と人力との直接の結合の感覚的表現であり、最も本能的な卒直な芸術欲の発露であるといえよう。

また観覧物としての奇術の効果を心理的に見れば、第一にいうまでもなく単純な驚異の念、これは素朴な原始的感情にすぎないが、その刺戟によって惰性に鈍磨した気分を一新する生理的効果はある。第二に好奇心や理想実現感の満足方法への疑問などが、発明欲とか科学的向上心などに知らず知らずの間に刺戟を与えるばかりでなく、その超人的な自在感の満足は、現実生活の不如意から来る心底の不満を慰し、宗教心理学のいわゆる「奇蹟待望」の潜在的欲望を充足することによって、迷信などに陥り易い性行も多分に阻止してくれるはずである。

むつかしい理論は兎も角として、この浮世では苦しい生活の下にあればあるほど、心の転換を求めるエンジョイメントが必要であり、数多くあるエンジョイメントの中で奇術は、勝負の世界に残る後味とちがった、夢と笑いをかもし出すところに、その醍醐味があるのではないかと思う。

奇術をやるのに素質はいらない

よく、私は不器用だから奇術なんて出来そうもないと云われる方がある。然し内科系の医師は指先に目があると云われるように、触診などで極めて微細な変化を指先で触れることにより、或程度診断出来る能力がある。また外科系の医師は、むづかしい手術をいとも容易にやってのける技術を持っている。いづれにしてもこれは不器用なものに出来るわけがない。

従って医者である以上、不器用だからという言葉は通用しないものと思ってよいであろう。本質的に云って器用さだけで左右されるものでないことは、総ゆる趣味芸能にもあてはまるものである。

練習熱心がものをいうが、要するに誰にでも出来るのである。

費用はどの位かかるのか

奇術に関しては、カーチャンの手前を気にすることはない。それ程まとまった金を必要としないからである。もっともクラブに入会すれば入会金として、二千～五千円位納めなければならないが、これとても人に気兼ねするほどの金額ではない。入会すれば毎月の例会費としては、どのクラブでも千円程度だから、趣味にかける費用としては安い方であろう。但し奇術用具を或程度買わなければならないが、デパートの売場にあるようなものなら、最低五十円からせいぜい五千円どまりであろう。高い道具は殆んどプロ用であり、それでも美女の空中浮揚に使われる三本剣（三本の青竜刀を逆さに立てた上に美女を寝かせ、一本づつ取って最後の一本で美女を空中に支えている奇術）などは三万円、怪奇のビヤダルと云われる空のビヤダルからビールが際限なく出てくる奇術が六万円で、それ以上のものは量産していないので、そう簡単に求めることは出来ない。

奇術界の現状

アマチュアの方が、プロより勉強しているというのは奇術界だけであろう。それも在米三十年の石田天海師が帰国するに及んで、日本奇術界は俄然活況を呈した。

米国は世界一の奇術王国である。奇術クラブの数に於ても世界一であり、会員数に於ても之に匹敵する国がない。そのうちで有名なＩＢＭ（インターナショナル　ブラザーフッド　オブ　マジシアン）の年次大会に至っては、四日間にわたって毎日朝九時半から夜十一時頃まで、新作発表会、分科会の各種研討会、個人の演技、改良研究会等が行なわれ、全く医学会並の盛況を呈するという。

その点我国のいかなる奇術クラブの年次大会でも、わづか一日で終りである。その米国奇術界で三十年も研究され、新作を発表され、在米奇術家トップ十人中の一人に数えられていた天海師の帰国は、大いに日本奇術界を飛躍せしめたのであった。

また医家だけの奇術クラブ（日本ドクターマジシアンズクラブ）は昭和四十三年に、世界に先駆けて創設され、本年六月に第五回全国大会を開催、盛会裡に終ったことはご存知の通りである。

手先が器用といわれる日本人が、もっと世界の奇術界で気を吐かなければならないと思う。

奇術がうまいと大いにもてる

さて、ここに一人日本の留学生で気を吐いている人がいる。唐沢俊三君といい、慶大卒で医者ではないが、日本にいる間に趣味で天海師より奇術の指導を受け、米国留学中も暇をみては研究している青年である。この唐沢君からの、活躍ぶりを報じて来たものがあるので、これをご紹介して本稿を

終ることに致します。

○　○　○　○

前略　大変ごぶさたして申訳けありません。昨年八月にニューヨークに参りましてから、九カ月以上たちまして、すっかりこちらの生活に馴れました。さて奇術の方は、昨年よりすっかり認められ、IGP及びIBMの正会員として色々な大会に出演し大活躍をしております。これも天海先生のお蔭と感謝しております。以下昨年よりの経過を御報告致します。

1. IBM発表会　九月二十一日（金）

この大会にはおよそ二百人位の人が集り、私はゲストとして一番最後に手袋をはめてミリオンカードをやりました。

先生に教えて戴いた通りのルーティングで最後に例のシルクを三枚出したところ、大変好評でした。私が手袋をはめてミリオンカードを始めた時、皆びっくりした様子で、次に手袋をとってカードを出した時に大変な拍手があり、最後にハンカチをカードの間から三枚とり出したら、センセイショナルだと大騒ぎになりました。初めは何で大騒ぎするのかわかりませんでしたが、あと色々の大会をみて初めてわかりました。こちらではコイン、カード奇術など非常にうまいのですが、ステージのスライハンドマジックは余り得意でない様です。とにかく今迄何回となく大会をみてきましたが、ミリオンカード、ボール、シガレットを演じた人を殆んど見たことがありません。二、三人のマジシャンが恐ろしく下手なボールをやったのを見ただけです。このIBMの発表会に出演してから一躍有名になりました。

2. IBMのクリスマス懇親会

十二月八日（土）

十一月のIBM大会で、たまたま私の芸を見られたIBMニュージャーシー支部の会長さんから、十二月の当支部のクリスマス懇親会で、是非奇術をやってくれとの依頼を受け、IBMの大会と同じものをやりました。当日出演したのは、私ともう一人のプロの奇術家の二人でした。当日食事を御馳走になり、出演料として二十五ドル戴きました。

3. IBMの大会

四月十二日～二十一日

これは大会というよりも、静養しながら奇術を楽しむという会で、ニューヨーク市から北へ五十マイル行った所にあるマホパック湖に面したホテルで、十日間にわたって行われたものです。ラウンドテーブルあり、発表会あり、講演あり、又その他の催しもあり、会員が本当に奇術を楽しんでいる様でした。四月十三日夜に私も出演しました。当日は大体前と同じものをやりましたが、最後にボールをやりました。普通の球さえもあまり上手な人がおりませんから、両手に一つから四つ出した時、皆唖然としておりました。この会には二日間滞在して帰って参りましたが、旅費、宿泊費は只でした。

以上の様なわけで、東京の名もない一奇術師が、ニューヨークで大活躍ということで、全くお笑いです。不思議なこともある

ものだと我ながらあきれています。

何故こんなにもてるかを考えて見ますと、一つはニューヨークにはスライハンドをやるマジシャンが殆んど居ないことと、もう一つは私のやるものが天海先生に教えて戴いたものばかりで珍らしいことだと思います。こうなると人間は欲が出るもので、何故東京のうちの会で、先生からもっと沢山教えて戴かなかったか、又もっと真面目にやればよかったと悔まれてなりません。

それでは又、お便り致します。会の皆様によろしくお伝え下さい。

ドライブへのいざない（第四回）

川崎健一郎

アユ釣りドライブ紀行

富山県在住の友人Hより「神通が釣れだした。」との電話あり。八月五日午前五時に富山駅前で落合うことを約す。

八月四日午後八時出発。入間・坂戸・東松山を経て熊谷で国道十七号に出る。近年は、こんな時間でも結構な混み方だ。高崎からは十八号を直江津へと向う。昨年十一月に開通した碓氷バイパスのお蔭で、軽井沢までの所要時間が三十分近く短縮されたのは嬉しい。

バイパスの途中で屋根がペシャンコになった乗用車を処理している現場に出会ったが、これは一体どんな事故を起こした車なのだろうか。

それはさておき、小生一人の場合なら、たいてい長野までノンストップなのだが、今回は、金沢の親戚へ行くという家内が同乗しているので、軽井沢郊外のドライブインで早くも第一回の休憩をとることにした。あせらずに、ノンビリムードで行こうというわけである。上田で再び小休止。午前二時半頃直江津で国道八号にはいる。数年前までは、八号線にはいったトタンに車がグンと少なくなったものだが、ここ一～二年の間に八号線を走る車の数も随分増えたものだ。真夜中だというのに車の切れ目が殆んどない。

「この調子で日本中が車で埋まっていくのかなあ……」そんな事を考えているうちに「親不知」の難所にかかる。難所といっても、今ではトンネル等の工事のお蔭で難所らしい感じが無くなってしまったのは、チョッピリ寂しくもある。

助手席にいる家内は、高崎を過ぎた頃から殆んど眠りっぱなしである。昼夜を問わず、車に乗ったが最後「着いたよ」といわれるまで眠り続けるというのは、家内の特技？　なのだ。

午前三時頃、定期便のトラックがたくさん停っているドライブインがあったのでそ

こで大休止。ついでに少し早いが朝食も摂ってしまう。ここで小一時間も過し約束の時間に遅れそうなので、以後は多少スピードを上げ早朝の国道をひた走る。

ところで国道八号は、新潟県側は殆んど海岸線に沿って走っており、昼間ならば果てしなく続く蒼い日本海を眺めながら走れるのでスバラシイが、カーブまたカーブで余りスピードは出せない。ところが、富山県にはいると様相は一変して、水田の中を一直線に何キロも突走ることができるので、ついスピードオーバーになりがちだから要注意。

午前五時五分、富山駅前広場に到着。待っていたHと会う。

走行距離　四一五粁
所要時間　九時間五分
純走行時間　七時間

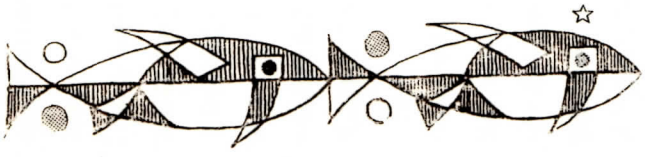
相変らず寝ていた家内をゆり起こし、売店で昼食用に「ます寿司」を買い、「たくさん釣っていらっしゃい」と言う家内に見送られて勇躍神通川へと向う。

さて、待望の神通川は水量・水色共申し分なく魚影も濃い。この川は天然遡上が何十万いや何百万もいるので、垢の付き工合等、川の条件さえ良ければ、わたし達釣師を決して退屈させたりはしない。

ところで、「碁仇は憎さも憎し……」という言葉があるが、釣仲間でも同じようなことが言えるようだ。Hもわたしも、掛りアユを手網に汲み終ると、「どうだ、やったぜ」と言わんばかりの顔をして相手を見るのだが、相手の方は一瞬早くソッポを向いて知らん顔をしてしまう。ところが、相手がバラシタ時（釣り落した時）には、ソッポなど向かずに、「惜しかったなあ」などと、心にもない？　なぐさめの声を掛けるのである。そうかと思うと、こちらが好ポイントにぶつかって良く釣れるのに、仲間が釣れない場所にいたりすると、「こっちへ来いよ」と呼んだりもするのであって、この事は釣師の心境の一端が覗えて面白いが、これも凡俗の釣師だからそうなのであって、本当に枯れてくればそんな競争心のようなものも無くなって来るものなのだろうか。

それはさておき、お昼頃になって掛りも少し遠のいたので、徹夜運転のわたしには休息も必要というわけで、堤防上の車の中で三時間余り午睡。夕方また二時間程楽しんで、その日の釣は終りとしたのだが、久し振りに友釣りの醍醐味を満喫した一日だった。

☆　☆　☆



談話室

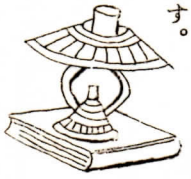
『漢詩の作法と歴史』読後感

川崎健一郎

初めは正直いって何とはなしに取っ付きにくい感じで、なかなか読む気になれず、ほかのを全部読み終り、もう読むのが無くなってしまったので、デハ一つ読んでみようかな、という位の気持で読み始めたのでした。

ところが先づその造詣の深さに感心し、また、わたしのような素人にも良く判るように書かれたその文章のうまさ、確かさにオドロキを禁じ得ませんでした。そして一旦読み始めた後は、引き込まれるように最後まで読み通した次第で、何だかもう止むに止まれぬ気持になり、こうして筆をとったというわけです。

このような大作を書かれる先生が西多摩医師会におられるということは、まことにうれしいことです。わたくしは、齢五十を過ぎた今になっても知らないことがまだまだたくさんあることを痛感している一人ですが、幸いなことに、わが西多摩医師会には、多芸多才あるいは人生経験豊かな先生方がたくさんおられますので、どうか皆さん億劫がらずにドシドシ投稿下さって、われわれにいろいろの事を教えていただきたいと切にお願い致します。



お手やわらかに

わたくしは、会報第三号に書かれた池田先生の編集後記の一部に異論がございます。それはどういうことかと申しますと、西医会報の時論欄は毎号必要か？　ということに関してでございます。

先づ結論から申しますと、時論欄は在ってもよし、無くてもよし、毎号無ければならないというものでもないと、わたくしは思います。もちろん、必要な場合には会報の大部分を時論欄が占めることもあり得るでしょうし、それはそれで結構ですが、それとは反対に、会報の大部分が文芸・随筆・趣味等の欄で占められていても、一向に差し支えないと思います。いや、その方がいいのだとさえ思うこともございます。なぜならば、西医会報の第一の使命は、会員

の親睦・融和にあるのだと思うからです。融和・団結を口にするのは、やさしいことですが、果して西多摩医師会は本当に融和・団結が保たれているでしょうか？　時論欄からは、親睦は生れて来ないのではないでしょうか。お互いに気心を知り、肌を触れ合い、肚を割って話し合える仲になるには、趣味・随筆の方がはるかに適していると思うのですが、いかがなものでございましょうか？

編集委員同志なのだから、編集会議の席で論じ合えばいいじゃあないか、とおっしゃる方もおられるでしょうが、より多くの先生方のご意見も知りたく思い、あえて親しい仲の池田先生に論争を挑んでみたのですが、ここまで書いてから気が付きました。「わたくしのように文筆とはおよそ無縁の者が、健筆家で知られる池田先生と紙上論争をしたところで、結果は見えている。もちろん、わたくしが負けるに決まっているではないか」と。

でも、こんなことで勝った負けたなんてことにこだわるのは愚劣ですよね。ですから、せっかく書いたのだから、エーイ!!　とにかく出してしまえ、と半ばヤケクソで投稿することに致しました。

願わくば池田先生よ。日頃の親交に免じてドーゾお手やわらかにお願いイタシマスル。

医薬品・農工業薬品・ワクチン・麻　薬
衛生材料・防疫用薬剤卸・レントゲンフイルム

中村薬品株式会社

本　社　東京都調布市上石原1丁目9番地6
電話調布(0424)－82－8211(代)～5番
中央店　東京都新宿区住吉町110
電話(357)1731(代表)

各部だより

福祉部

医療機関従業員慰安旅行については、毎年道路交通状況が悪化するばかりで御参加の皆様に御迷惑をおかけしましたので、今年は先日御案内申し上げました様に都内見学、東宝名人会の寄席を楽しんで、九月十日無事終了しました。予定通り浜離宮を一順しながら庭園美を観賞しました。此処の大泉水は『汐入りの池』でごく珍らしいものだそうです。次に貿易センタービルの展望台まで四十階をエレベーターで三十六秒を要しましたが『気笛一声新橋を』のあの古い古い新橋駅、さき程の浜離宮等を展望しセンタービル内で昼食。東宝名人会で参加者の皆様に、御婦人方にはアイスクリームを、男性方にはカンビールを配りましたが、丁度シャンパローの出番でした。『ああアイス配ってるよ！　ビールもあらぁ、西多摩医師会の連中かな？』と云わせるハプニングもありました。

従業員需給状況、給与、待遇等に関するアンケートを発送し、締切日の八月三十一日までに回収した件数は二十二件にとどまりました。結果が分り次第御送付致します。

福祉部では、今年から東京医師モータリスト協会の西多摩支部としての活動を開始致しました。モータリスト協会の理事としては西多摩医師会からは、大河原理事が選任されておりましたが今年は先生が辞退されましたので福祉部の川崎理事を協会の理事に選任し、内山理事、福島理事が協会の代議員となりました。毎年春秋二回の運転者講習会は高木理事が青梅警察医ですから警察署との交渉を円滑にするため従来通り高木理事にお願い致しました。九月十二日に講習会を開催致しました。運転免許証の書替の時期についての変更があるとの事でした。ドライブや優良運転者の表彰については川崎理事にお願いしてありますが現在計画通りに進んでおります。

産業医部

産業医名簿作製の資料を集めるため、過日会員にアンケートを発送しましたが中間報告を致します。アンケートの回収率は四割強でした。回収率四割強と申しましても、実際に嘱託医である先生は十七名で、他の先生は該当なしと記入してありました。又之と並行して八月二十五日、二十九日に青梅労働監督署へ出向き、保管されている名簿を調べましたが此方は四十七名の会員が記載されておりました。会員から回答があったが労監の名簿に記載されていない場合と、労監の名簿に記載されているが会員からは回答がなかった場合とがあった。名簿をより正確にするために、該当される会員にもう一度だけ連絡をとりますので御協力をお願い致します。

アンケートの内容は会社名とその所在地は勿論のこと勤務状況、報酬についても記入していただきました。その結果は次の通りでした。

出勤回数　件数　報酬年額

一、年一回　二　五万円、十二万円

二、月一回　一　十二万円

（月十二回）　一　六十万

三、随時　十一　三十万、二十四万約九万、その他五万、四万、一万一名、無報酬一名

四、名目のみ　八　二万四千、一万無報酬二名

光化学スモッグが問題になっておりますが之は工場の衛生管理に従事している産業医も関心の深い所でありますが、之に関係した参考文献が『日本医事新報』に掲載されております。№二五一七、四十七年七月二十二日発行。光化学スモッグによる急性呼吸障害の救急処置。慶応大学講師　横山哲朗。№二五二二、八月二十六日発行。光化学スモッグ禍を経験して。東京立正高校医　酒井政次。

御参考までに御紹介致します。

夏の碁会

碁会は例年、年一回厳寒の二月十一日に開催しておりましたが、かねてから、年一回では待ち遠しい、毎月でもやりたいと、熱心な方々の要望がありましたので、今年から夏季にも実施する事になり、八月二十七日（日）午后一時から西多摩医師会館で挙行しました。

高水会長始め集る者十三名、当日は晴天で風もなく、流汗リンリとむし暑い日でしたが、そこは碁打の事、暑さなど感ずる事なく、盤上に熱戦を展開して、楽しい一日を過しました。成績は左の通りです。

優勝　清水　3級

二等　栗原（二省）　3級

三等　甲斐　三段

四等　宮地　1級

五等　速水　二段

六等　川崎　3級

七等　桂木　初段

同好の方々!!　次回来年二月十一日を腕を撫してお待ち下さい。

ボウリング同好会だより

秋風と共に空も高く澄み、運動に快適な季節になって来ました。老若男女雨が降っても風が吹いても、何時でも楽しめるスポーツに、今月も皆さんでご参加下さい。

○　○　○

日時　十月十四日（土）八時三十分

場所　多摩ボウリングセンター

会費　千円（これは格安です）

なお九月月例会の結果は次の通りでした。

Aクラス　　Bクラス

一位　岸野　弘　　一位　豊田　祐子
二位　高水　清美　　二位　野村　宗人
三位　矢ケ崎一裕　　三位　三井千枝子
四位　矢ケ崎久雄　　四位　高水　武夫
五位　江本　幸子　　五位　豊田　香穂

ハイゲーム　岸野　弘
ブービー賞　尾崎　亘弘

以上

第34回青梅医師会ゴルフコンペ

47. 7. 20　　立川国際　草花コース

	氏名	O	I	T	N	HD	
1.	平林信隆	54	45	99	76.6	(28) 22.4	
2.	東吉男	50	51	101	77.8	(29) 23.2	
3.	高水武夫	45	48	93	78.6	(18) 14.4	
4.	江本虎雄	44	42	86	78.8	(9) 7.2	B.G
5.	堤次雄	58	50	108	79.6	(36) 28.4	
6.	宮地誠	49	47	96	80	(20) 16	
7.	丸茂三千穂	51	54	105	85	(25) 20	B.B
8.	大河原周	56	59	115	91	(30) 24	
9.	木村	46	45	91	79.8	(14) 11.2	

編集後記

秋川谿谷もほんのりと色づき窓下には虫時雨が降りそそぐ夜長の季節となりました。

原稿集めの心配で発足した私達の会報も齢四カ月、今や予算の心配までに漕ぎつけたことは投稿諸兄の賜で西多摩丸の出足好調とひそかに喜んでいる次第ですが、航路を阻む色々の障害物を乗りきるためには、全会員が漕ぎ手になって頂く必要を痛感しており、会長の「所感」にもこの点が触れられており又新に「談話室」なるコラムの設けられた所以でもありますので、気軽にドシドシ御投稿下さるようお願いします。

扨て本号も御覧の通りの多彩ぶりで、小泉先生の医政問題も次回からはグローバルとなる由仄聞しており、岸田先生の蓄蓄ぶりは今更もがなで、時恰も日中間の永かった壁がとりはづされた今日益々傾聴に値する論文となり、M・H生の宝石夜話、池田先生の奇術の話と共に私達会員仲間の論文であることに、西多摩も多士済々の感を深くしています。

一方御存じF氏の「トロロ葵」は曾てのムーラン・ルージュのシナリオライターの面目躍如なるものがあり、行間におのずから人柄が滲み出ているK氏の達意の随筆と共に今後とも是非続けて頂きたいと思います。

川崎先輩の後塵を拝して今後蛇足を加える辛さをお察し下さい。

古人曰く「物云へば唇寒し秋の風。」

（杉本　生）

台風二十号も当地に於いては大した被害も与える事なく過ぎ去り、代って本格的な爽やかな秋の訪れとなり今流行のオキシダントなる言葉を忘れさせる様な此頃です。

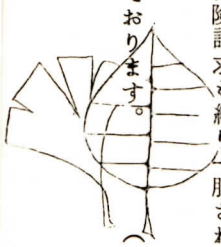
さて今回より達人であった池田先生より引き継ぎましたが、ワサビの効いた先生の後記より一転して、丁度一昼夜放置したコップのビールの如く気が抜けて、どうしようもなくまずい、しまりのない後記となってしまいますが輪番制でありますので、お許し願います。

本号には小泉先生の時論及び岸田先生の労作の連載をはじめ、先生方からのあれこれ、うん蓄のある作品、愉快な読物、談話室での発言等々、数々を掲載する事が出来、賑やかだし可成りに読みごたえのある号だと、編集員としては実のりの秋を感じ感謝しております。

四号を手にされる時は煩らはしい保険請求も終り一服されている頃と思います。

ごゆっくりお目通し願えればと思っております。

（堤）



愚案するに冥途もかくや秋の暮　（芭　蕉）

門を出れば我も行人秋のくれ　（蕪　村）

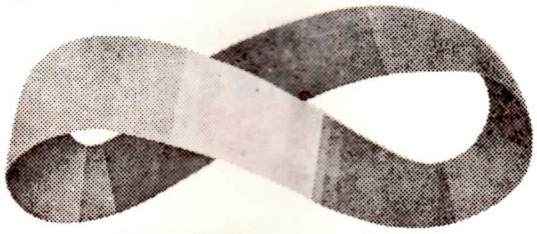
そろそろ土に返える虫の声も、益々淋しさを加える今日此の頃です。歯齢、五十路を越えた我々には、秋風が一入身にこたえる様です。会報第四巻を編するに当たって、そろそろ紙面を賑わす顔触れが残念乍ら、決まって来た様に思はれます。

本号初頭に会長が〝所感〟として述べられた様に、会員各位一年に一回、何れかの形で御投稿頂く様に原稿用紙を配布致します故、何卒御援助を願い上げます。

又本号より川崎先生の御発案に依り〝談話室〟を設けました。本会報に対する御不満、御批判、御意見等どしどし御寄せ下さい。

（藤野　記）

抗生物質療法の限界に挑戦する



新合成広範囲抗生物質

新発売　ミノマイシン®　健保適用

塩酸ミノサイクリン100mgカプセル

特　　長：1.耐性ブドウ球菌にも強い抗菌力をしめします
2.著名な殺菌作用がみとめられています
3.他の抗生物質との交叉耐性が見られません
4.耐性獲得は遅く、耐性菌をつくりにくい抗生物質です
5.少量の経口投与で高い血中濃度を長時間持続します

用法・用量：1日 1～2回〔100～200mg(力価)〕で各種感染症にすぐれた治療効果がえられます

包　　装：100カプセル

薬価基準：1カプセル(100mg) 340.㍍

Lederle　製造 日本レダリー　販売 武田薬品

（創業60周年）

医薬品・化学薬品・工業薬品・卸

本郷薬品株式会社

多摩営業所　東京都日野市三沢649番地
〒191　電話0425(81)0838・0820番
本　社　東京都文京区本郷5丁目24番7号
〒113　電話(815)2511番(大代表)
振替口座東京22265番
横浜営業所　神奈川県横浜市神奈川区鳥越町6番地
〒221　電話045(432)4341～3番
千葉営業所　千葉県千葉市作草部町1055－7番地
〒280　電話0472(51)6261～4番
杉並営業所　東京都杉並区4丁目7番2号
〒167　電話(395)0274
大宮営業所　埼玉県大宮市吉敷町3丁目149番地
〒330　電話0486(43)2143
本社小売部　本郷薬局(815)1257番

サービス、誠実、迅速の三要素をモットーに
医薬品の御用命を心からお待ち申しあげます

医薬品卸

福神株式会社

国立営業所　国立市北3丁目8番地4号
電話 0425（72）6151－5
本　社　東京都千代田区内神田1－12－1
電話（292）3331